

## 2.2. 隈 研吾氏（建築家）

「優等生にならなくていい。とんがった都市であってほしい。」



隈 研吾（くま けんご）

神奈川県出身。北九州市アドバイザー。

1990年、隈研吾建築都市設計事務所設立。慶應義塾大学教授、東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。40を超える国々でプロジェクトが進行中。自然と技術と人間の新しい関係を切り開く建築を提案。著書に『日本の建築』（岩波新書）、『全仕事』（大和書房）、他多数。

### 「工業と関わりの深い水との接点を再び」

先日、北九州市を訪れましたが、改めてやはり面白い場所だと思いましたね。特に工業都市であるという特徴がこれから使えると思います。工業は水とのかかわりが深く、水は環境とつながりがあり、その点において北九州は日本で一番可能性のある場所ではないでしょうか。工業都市というのは産業面だけではなく、文化面でも独自の特徴を持つという意味です。

人々と水との接点については、スコットランドのダンディーという都市では、倉庫群によってウォーターフロントと都市が分断されていましたが、核として、ミュージアムの一部を川の中に張り出すように設計し、倉庫群を一掃することで、都市と自然をつなぎなおすことで克服しました。北九州においても、水との接点をもっともっと増やしていくことを期待したいですね。

### 「工場群と都心部をアートでつなぐ」

北九州には、歴史のあるいろんなタイプの建築物や工場など、面白いハードがたくさん残っています。今後は、これらのハードが互いに繋げていき、情報としてそれらをどのように発信していくかが課題でしょう。

その中で、工場群は現代アートやパフォーマンスを行ううえでも使える面白い存在です。新たに文化施設をつくるのとは違った文化を作ることができます。そのうえで、それらの工場群をどのように都心部と結びつけることができるかが重要です。このような点については、同じく工業都市であるドイツのルールなどがとても参考になるのではないのでしょうか。

### 「工業都市の文化を活かしてとんがれ」

北九州はこれまでも色々と先駆けて挑戦してきた街であるので、思い切ってとんがったことをやっても誰も驚かない場所だと思います。IT, DX にしろ、思い切ってキャラクターの強いことをやった方が良いでしょう。あまり優等生のような雰囲気になって欲しくありません。工業都市としての一種の荒っぽい文化を活かしてとんがってほしい。それをデザインにおいてもある種とんがったことをやって、古いものを活かしてもらえたらと思います。

### 「とんがった都市であれ」

改めて、北九州市はとんがった都市であってほしい。先日釜山を訪れた際も、とんがらないとアジアの中で突出しない。これからは韓国・

台湾・香港など、アジアの都市が北九州市が発展する上でのライバルになります。北九州市が埋もれてしまわないように、その個性を出してどんどんとんがって行って欲しいと思います。